

「衛星地球観測の将来計画」

日本写真測量学会 対外協力委員会
日本リモートセンシング学会 実利用委員会

シンポジウム概要

日時： 2018年11月16日(金) 10:30~12:30(10:15 受付開始)

場所： 日本科学未来館 7階会議室「天王星」

共同主催： (一社)日本写真測量学会、(一社)日本リモートセンシング学会

共催： 地理情報システム学会

シンポジウム名称及び趣旨

「衛星地球観測の将来計画」

【趣旨】

現在、世界各国において、地球規模の課題に対応するための重要なビッグデータ源である地球観測衛星の将来計画が活発に検討・立案されている。本年1月には米国の宇宙からの地球科学・応用10年戦略であるDecadal Strategy 2018-2027が発表され、欧州においても次世代コペルニクスに関する検討が進んでいる。我が国においても、関係省庁、JAXAにおいて地球観測衛星の将来計画の検討が進められており、昨年には日本学術会議の提言「我が国の地球衛星観測あり方について」が公表され、それを受けてTFリモセン分科会(※)が地球観測グランドデザインを策定するとともに衛星地球観測ミッション公募を行っている。また、特に米国を中心として民間による小型衛星コンステレーションの構築が進み新たな利用の地平が切り拓かれていることも見逃せない。本シンポジウムでは我が国の衛星地球観測が進むべき方向についての今後の議論の一助とすべくこれら世界的な動向を俯瞰することを目指す。

※今後の宇宙開発体制のあり方に関するタスクフォース会合リモートセンシング分科会

講演プログラム

講演題目は全て仮題

(敬称略)

10:30-10:35	趣旨説明	(一財) リモート・センシング技術センター 福田徹
10:35-10:55	JAXAの地球観測衛星とその利用計画	宇宙航空研究開発機構 第一宇宙技術部門 衛星利用運用センター センター長 内藤一郎
10:55-11:15	NASA Earth Science Division Decadal Implementation Overview	NASA アジア担当代表 ガーヴィー マッキントッシュ
11:15-11:35	欧州コペルニクスの動向	(一財) 宇宙システム開発利用推進機構 利用技術本部 利用研究部 部長 立川哲史
11:35-11:55	超小型衛星Planetの利用状況と今後の展望	(株)衛星ネットワーク 地球観測衛星プロジェクト 主幹 澁谷 恵
11:55-12:15	衛星地球観測ミッション公募について	千葉大学 環境リモートセンシング研究センター 准教授 本多嘉明
12:15-12:30	総括	東京大学 先端科学技術研究センター 教授 岩崎 晃

以上